

1. 建物概要

建物名称	鯛ヤマム倉庫様 吉田27号倉庫	BEE	0.9	BEEランク	B-	★★
------	-----------------	-----	-----	--------	----	----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	2.7	/5	 がんばろう 
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.4	/5	 がんばろう 
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	4.0	/5	 よい 
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	3.0	/5	 ふつう 
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4点以上  ふつう 3点以上  がんばろう 3点未満 	

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目	
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点	2.7
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④主要な用途上位3種にB以上を使用しEは不使用 ④受水槽(FRP)の更新必要間隔は25年	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	外皮性能 昼光利用設備 昼光制御 躯体材料の耐用年数 外壁仕上げ材の補修必要間隔 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 空調換気ダクトの更新必要間隔 空調・給排水配管の更新必要間隔 主要設備機器の更新必要間隔
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤緑地づくりを行い自生種シラカシ、ドウダンツツジが現存	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪省水型機器(節水型便器)を用いている。 ⑬発泡剤不使用。(グラスウール断熱材)	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3 ⑫ ⑬	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)		得点	2.4
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	耐震性 免震・制振性能 空調・換気設備 給排水・衛生設備 電気設備 機械・配管支持方法 通信・情報設備
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)		得点	4.0
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ㉑各階高は5.6m以上	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ㉑ 3.1.2 ㉑	ユニバーサルデザイン計画 階高のゆとり 空間の形状・自由さ
	■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑防犯性に配慮している。	Q-3 3 3.1	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		得点	3.0
	■室外環境(敷地内)対策 (⑥生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3 1 2 3 3.2	⑥ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ・景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)	LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善

CASBEE®-建築(新築)

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_評価版

■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社ヤマムラ倉庫様 吉田27号倉庫	階数	地上3F
建設地	静岡県榛原郡吉田町川尻字901-1	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、法22条地域	平均居住人員	10 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,349 時間/年(想定値)
建物用途	工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年11月 予定	評価の実施日	2025年11月4日
敷地面積	9,618 m ²	作成者	青島 一馬
建築面積	5,660 m ²	確認日	
延床面積	14,612 m ²	確認者	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.9</p> <p>★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★</p> <p>環境品質 G</p> <p>環境負荷 L</p> <p>BEE=1.0</p> <p>0.5 0.9 1.5 3.0</p> <p>50 100</p> <p>0 50 100</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>建設 修繕・更新・解体 運用 オンサイト オフサイト</p> <p>0 46 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目目で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)			
Q 環境品質			
Q1 室内環境			
Q1のスコア= 0.0			
5 4 3 2 1			
N.A. N.A. N.A. N.A.			
音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境			
Q2 サービス性能			
Q2のスコア= 3.5			
5 4 3 2 1			
N.A. 2.9 4.2			
機能性 耐用性 対応性			
Q3 室外環境(敷地内)			
Q3のスコア= 3.0			
5 4 3 2 1			
3.0 3.0 3.0			
生物環境 まちなみ 地域性・			
LR 環境負荷低減性			
LR1 エネルギー			
LR1のスコア= 2.0			
5 4 3 2 1			
1.0 N.A. N.A. 3.0			
建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的			
LR2 資源・マテリアル			
LR2のスコア= 3.1			
5 4 3 2 1			
3.0 3.1 3.3			
水資源 非再生材料の 汚染物質			
LR3 敷地外環境			
LR3のスコア= 3.0			
5 4 3 2 1			
N.A. 2.8 3.1			
地球温暖化 地域環境 周辺環境			

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果である。		株式会社ヤマムラ倉庫は、物流施設やニーズに応じた事業空間を提供することで、企業の発展や地域貢献・活性化を目指す会社です。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
対象外である。	各階高は5.6m以上である。 1階の壁長さ比率0.051であり空間にゆとりを持たせた。 倉庫の床荷重は15000N/m ² であり、建物の荷重にゆとりを持たせた。	庇を設けており、且つ視線を遮らず防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
—	S造のため解体が容易である。 省水型機器(節水型便器)を用いている。	従業員数に対して十分な駐車場を確保している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される